

住宅地周辺でのマダニ対策 Q&A

公益社団法人日本ペストコントロール協会
技術委員会

マダニが媒介する SFTS(重症熱性血小板減少症候群)などの感染症が問題になっています。マダニに刺咬されても、そのマダニが病原性ウイルスやリケッチアなどを保持していなければ、問題はありますが、現状では、どれくらいの率で病原体を保持しているか、そのマダニはどの地域に多いのかといった情報はいまのところあまりありません。平成 25 年から 3 年間の厚生労働省の調査でいろいろ究明されることを期待したいところです。

現実には、PCO に対し、「自宅の庭が山とつながっている。子供が庭でよく遊ぶが、どのような対策をしておくよいか」、「河川敷で花火大会を行うが、浴衣姿で来る人も多い。事前に駆除対策をしておく必要はないか」、「ゴルフ場ではどのような対策をしておくべきか」などといった質問を受けることもあるようです。

米国では 30-40 年前からマダニの媒介する「ライム病」が大きい問題になり、その防御のための対策が進んでいます。1999-2009 年の 11 年間に 25 万人も報告され、欧州でも年間 8 万人以上の患者発生が推定されています。そのため米国 CDC、州の健康局、大学などから予防のための多くの情報が Web site で発信されています。ダニの種類は異なるようですが、個人として、施設管理者として、どう対策をすればよいか示されています。人間の生活環境に近い生息地での管理方法の基本は同じと考えられますので、米国のいくつかの情報よりその対策を紹介しました。

Q 1: 住宅周辺地域ではどのような対策をすればいいでしょうか?

A 1: 以下の 4 つの対策からなっています。

- (1) 監視 (Surveillance)
- (2) 緑地管理 (Landscape management)
- (3) ターゲット個所への薬剤処理 (Targeted chemical control)
- (4) 個人で行う予防 (Personal protection)

Q 2: 監視とは何をやるのですか？

A 2: マダニ管理をしようとする緑地帯の、どこにマダニの生息が多いかをまず調べる必要があります。旗ふり法(或いは旗ずり法)という方法で調査をします。70×70cm 程度白いフランネルの布の一端に 1m 位の棒を取り付けた旗のようなものを作成します。

草むらなどの植生に触れるように旗を左右にゆっくり振りながら一定時間歩行し、マダニを取り付けさせ、ピンセットで回収し、アルコール或いは草片の入った瓶に入れ持ち帰り、専門家が同定をします。芝生など平坦なところでは、旗に紐をつけ、芝生の上を引きずって歩きます。一定時間、例えば 1 時間に何匹捕獲したかで、多いか少ないかを判定します。米国では、判定基準値を示している組織もあります。

Q 3: どのようにして緑地を管理するのですか？

A 3: マダニは森の中の湿度の高い湿った所を好みます。よく手入れされ、刈り込まれて乾燥した緑地には少ないとされています。住宅周りの人の活動する場所と、自然状態の森とをはっきりと区別できるような対策が必要です。住宅の庭園の場合、森との境界線に 1.5m 幅の小石や、石を積み上げた垣で、ボーダラインを形成し、マダニの庭園への侵入をできるだけ阻止することです。庭園内に樹があれば、樹冠を剪定し、下枝を刈り取り、芝生に太陽光が当たるようにします。地表は乾燥しマダニは生息しにくくなります。庭のベンチ、滑り台、ブランコ等の遊具はなるべく森から離すことです。またその下は、芝を刈り、土が露出した状態にしましょう。刈り取った草、積み上げた丸太などをそのままにしておくと、その下が生息場になり、ネズミも生息しやすくなります。ノネズミはしばしば、マダニの幼虫や若虫の吸血源になるため、庭園への住みつきを防ぐことは大切です。建物周りをすっきりさせネズミの隠れ場所がないようにすること、枯葉もよく取り除くこと、そして庭園へのシカ等の野生動物の侵入を防ぐことも大切です。野生動物はマダニの吸血源になります。庭園と森の境界線に、フェンスを設けましょう。

Q 4: マダニの駆除法 (ターゲット個所への薬剤処理)

A 4: 森林から庭園内への侵入をなるべく抑えるため、庭との境界部の外側に殺虫剤を帯状にスプレーします。高さ 1m 前後の垣根用の低木へも散布すること。米国では有機リン剤、ピレスロイド(デルタメスリン、シハロスリン、パーメスリン、ピレトリン、ビフェンスリン等)、カーバリルなどが殺ダニ剤として使用されています。日本でも、マダニの防除を標榜する殺虫剤は医薬品、又は医薬部外品として取り扱うこととなり、厚生労働省より承認されたものが販売されています。

Q 5: 個人でマダニの刺咬を防ぐ方法は?

A 5: 野外で農作業をするとき、庭仕事をするとき、ハイキングや登山で草むらを歩く時などは、マダニに取り付かれないような工夫が必要です。

■服装

マダニが取り付きにくい、目の細かいすべすべした白系のナイロン布地の素材の服を着用します。皮膚への刺咬を防ぐため、ズボンの裾は靴下の下に入れ、服の裾はズボンの下に入れ、袖口も閉じます。つなぎの服は効果的です。歩く時は、道端の草になるべく触れないように真ん中を歩行します。現在、日本にはツツガムシ用の医薬品のディート 12%虫よけスプレーがあります。

■取り付いたマダニの点検

草むらを歩いた後、農作業やゴルフの後などは、マダニの付着がないかよくチェックします。特に草の上などに座って立ち上がる時にはよく調べ払い落とします。作業終了後は、風呂やシャワーを浴び、髪の中、体表をゆっくり点検します。(ホクロと間違えることがあるので注意が必要) その後、下着も含めよく点検するか、新しいものに着替えます。使用したバックパック、ゴルフ道具などもよく点検します。

■ペットの管理

犬や猫も体につけて持ち帰ります。よく点検し、見つけたらペット用マダニ駆除剤をペットに処理しましょう。

■もし加害されたら・・・

米国 CDC では、1 日以内ならまだ病原体は入っていないので、尖ったピンセットの先でマダニの刺し口をはさみ、抜き取る方法を薦めています。日本でも医療用マダニとりピンセット、ダニツイスターなどが紹介されています。それ以上、日がたつと、刺し口をセメント様のもので固めてしまうため引き抜くと体内に虫体が残るので、医師の診断を受けることをおすすめします。

・医療用マダニとりピンセット http://www.earth-bio.co.jp/pet_02c05d.html

・ダニツイスター <http://kurokuro.jp/SHOP/10000248.html>

(上記 URL は情報提供時の参考です。リンク切れの際は商品名等で検索する等してください)